

技術系管理職のための人・組織マネジメント実践コース

講 師（敬称略）



山田 豊

株式会社 YYC 代表取締役 / 一般社団法人チームスキル研究所 代表理事

- ・マスターマネジメント・コンサルタント(J-MCMC)認定
- ・DiSC認定トレーナー
- ・CTI認定CPCC（プロ・コーチ）
- ・CRR認定ORSCC（システム・コーチ）
- ・日本ファシリテーション協会会員
- ・初級産業カウンセラー

経 歴

1991年、埼玉大学工学部応用化学環境化学工学科卒
1991年以降、日本能率協会コンサルティングにて25年以上にわたり、コンサルタントとして幅広い業種、分野、部門における改善推進や人材開発、組織開発、新事業/新商品企画/開発支援、などに関する多くのコンサルティングに携わる。
特に「個人」や「集団」の力を引き出しながら、状況変化に対応しつつ成果実現を促していくファシリテーション型のコンサルティング支援を得意とする。
会議改革を切り口とした改革活動をはじめ、ファシリテーター養成、コーチング支援、コミュニケーション改革などを中心とした研修、ワークショップ、活動などをリードする。
マネジメント職やリーダー職向けの研修や、社内コンサルタント育成、などの研修も企画・実施リードする。

2016年独立。チーム力開発、企業内研修内製化、社内コンサルタント養成、組織開発などを中心にクライアントとのコラボレーションを実現している。
2016年5月株式会社YYC代表取締役
2016年6月一般社団法人チームスキル研究所に加入、同理事となる

■主な著書・執筆

- ・「会議で事件を起こせ」新潮新書
- ・「本物の会議」日刊工業(共著)
- ・「チャートで考え、伝える技術」JMAM(共著)
- ・「会議の上手なやり方が面白いほどわかる本」中経出版(共著)
- ・「最高の結果を出すファシリテーション」ナツメ社
- ・「生産性の高い会議の技術」学校法人産業能率大学
- ・会議改革関連記事：週刊アエラ、週刊ダイヤモンド、東商新聞、日経キャリア、人材教育、等

■主な出演

- ・NHK「クローズアップ現代」：番組コメンテーター
- ・NHK「会社の星」：番組コメンテーター

お申し込みについて

1



パソコン(各種検索サイト)からダイレクトで

セミナーID(半角数字) **JMA 152495** で検索

もしくは、**<https://school.jma.or.jp/>**

※貴社の情報セキュリティ方針等でwebからのお申し込みが難しい方は
JMAマネジメントスクールまでお電話にてお問い合わせください。
TEL：03(3434)6271

2



スマートフォン
タブレットから



参加料（消費税込）

	早期申込割引参加料 早割申込締切：7/31(水)	通常参加料
一般社団法人 日本能率協会法人会員	187,000円/1名	220,000円/1名
上記会員外	205,700円/1名	242,000円/1名

※参加料にはテキスト（資料）費が含まれております。

※本事業終了時の消費税率を適用させていただきます。

※法人会員ご入会の有無につきましては、下記HPにてご確認ください。

<https://www.jma.or.jp/membership/>

※参加申込規定はお申し込みページにございますのでご確認ください。同意のうえお申し込みください。

キャンセル規定

参加予定の方のご都合が悪い場合は下記のキャンセル料を申し受けますのでご了承ください。
なお、キャンセルの申し入れは文書（メール・お問い合わせフォームを含む）をお送りください。

キャンセルご連絡日	キャンセル料
開催30日前（開催日を含まず起算）～8日前	参加料の10%
開催7日前（開催日を含まず起算）～前日	参加料の50%
開催日当日	参加料の全額

参加定員

12名 ※参加人数が最少催行人数に達しない場合は、延期もしくは中止にさせていただきます場合がございます。

オンライン受講の方法

- ・オンライン会議ツール「Zoom」で配信します。
事前に接続テスト（<https://zoom.us/test>）にアクセスいただき、動作をご確認ください。
- ・1申込につき1名様がお受講ください。（著作権の観点から1申込で複数の方のご受講はお受けしません）
- ・ビデオオンできる環境をご用意ください。イヤホンやヘッドセット、外部スピーカーを使用しての受講をおすすめします。
- ・お申し込み時、参加される方のメールアドレスを必ず登録してください。
- ・テキストは事前に配付します。
- ・本セミナーの講義資料および配信映像の録画、録音、撮影など複製ならびに二次利用は一切禁止です。
- ・Zoomにおけるリモート制御ならびにレコーディング機能はホスト側にて停止させていただきます。
- ※お申し込みの前に必ずオンラインLIVEセミナー規約をご確認ください。
お申し込み完了を以て規約に同意したことといたします。

ご注意

- ・参加申込規定はお申込ページにございますので、ご確認・同意の上、お申し込みください。
- ・同業他社からのご参加はお断りする場合があります。
- ・参加者数が最少催行人数に達しない場合は、延期もしくは中止にさせていただきます。

会員制度のご案内

小会は法人を対象とした会員制度を設けセミナー参加料割引をはじめ各種サービスを提供しております。詳しくは関西事務所までお問い合わせください。

企画に関するお問い合わせ先（プログラム内容、講師派遣、会員入会 等）

一般社団法人日本能率協会 関西事務所

TEL：06(4797)2050(代表) / メール：jma-kansai@jma.or.jp

申込に関するお問い合わせ先（参加証・請求書、キャンセル・変更 等）

JMAマネジメントスクール TEL：03(3434)6271

電話受付時間 月～金曜日9:00～17:00 ただし祝日を除く

メール：seminar@jma.or.jp FAX：03(3434)5505



オンライン

技術系管理職のための 人・組織マネジメント 実践コース

全4日間 集合研修（オンライン）、個別コーチング1回

会 期

2024年 9月 9日(月) ～ 2025年 1月15日(水)

第1回	2024年 9月 9日(月)
第2回	10月 9日(水)
個別コーチング	11月 8日(金)
第3回	12月 9日(月)
第4回	2025年 1月15日(水)

開催形式

オンライン (Zoom)

特 長

- 9月から1月まで全4日間の集合研修（オンライン）
- 1人あたり30分の個別コーチングセッション付き
- 12名の少数定員制で実課題を持ち寄り学ぶ

はじめに

技術系管理職においては、技術者として優秀なプレーヤーが評価され、管理職となっていくパターンが多く見られます。

一方、いざ管理職になると、扱う対象が「モノや技術」から「ヒトや組織」へ変化するため、プレーヤーとして優秀だった人が、必ずしも管理職として力を十分に発揮できているとは限りません。

管理職になる際、このようなヒト系へのマインドチェンジやスキル向上が求められるにもかかわらず、多くの技術系管理職がこれに無自覚であったり、悩みを抱えている人が多いと認識しています。

本コースは、このような課題を解決するため、「人・組織をマネジメントする際に必要な基本的な考え方やあり方」について、集合研修とアクションラーニング形式により気づきと行動変容を促すプログラムです。

こんな人におすすめ

人・組織力を高めようとしても…
悩みいろいろ

技術系部門の管理職になったが・・・

- そもそも人の育て方がよく分からない
- 技術は教えられるが、仕事力はどう教えたらよいか …
- 簡単なことがどうして出来ないのかが分からない
- つい自分でやってしまう (自分がやったほうが早い)
- 受け身、指示待ちな人が多い (相手がよく分からない)

- 職場チームが不活性 (暗い・元気ない、雰囲気悪い)
- チームビルディングと言われても何をしたらよいか …
- パワハラやメンタル問題に気をつかうのがめんどろ
- 個人商店の集まりで相乗効果がでない
- 人とか組織の扱い方がよく分からない
- なんとなくストレスが溜まる …………… など

開催概要

- 対 象

技術系管理職クラス (推奨：管理職になって2～3年目) ※1社あたり4名まで (それ以上の場合は応相談)
- ね ら い

管理職として、人と組織の力を最大化し、継続的に職場チームのパフォーマンスを維持・向上するための、基礎的な「あり方」と「やり方」を、実践を通じてレベルアップを図る。
- <本コースのゴール>

1. 人・組織の力を最大化するための基礎的な知識と、それを活用するための「あり方」と「やり方」が自覚できている。

2. 自職場 (チーム) が、継続的にパフォーマンスを維持・向上する (成長し続ける) ための基本行動が共有されている。

3. 自分の思い込みや行動パターン (くせ) を自覚し、実践を通じてその変化や、自己成長を実感できている。

基本的な考え方

1. あえて異なる企業における管理職が、共に学ぶ機会をもつことで、相互刺激や固定観念の打破を促し、新たな気づき、発見を得る機会とする。

2. 人と組織を成長させ、それを継続するための基本的な考え方と方法論を学ぶだけでなく、管理職としての「あり方」にも焦点をあてて学ぶ機会とする。
▶技術力の向上だけでなく、人としての成長、チームとしての成長に焦点を当てる。

3. コース全体を通じて、参加者自身の自己内省を進め、自分の中の思い込みや行動パターン (くせ) を自覚することに重点を置く。
▶技術者 (プレーヤー) として優秀であっても、管理職として人・組織の力を最大化するためには、プレーヤーだった時に染み付いた思考や行動のパターンを変えていく必要があることに気づけるようにする。

4. 自覚促進や気づき促進のために、積極的に「違い」を活用する。(人による違い、会社による違い、職場や社会に存在する多くの違いから気づく)

5. 一過性のものではなく、継続的に変化・成長しつづけるためのスキルや仕掛けを重視する。

プログラム

